

来賓挨拶

桃の節句も過ぎ、春の訪れを感じるころとなりました。

富山県立総合衛生学院看護学科の閉科式にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

貴学院は、昭和 26 年（1951 年）に開設され、その 70 年にわたり、輝かしい歴史と伝統を築き、富山県の保健・医療・福祉の各分野において、看護教育の充実、向上に多大なご貢献をされてこられました。

また社会状況の変化により、看護基礎教育においても、高度化・専門化する知識・技術教育はもとより学生の人間性の涵養まで、一方ならぬご尽力をいただきました。こうしたことより県内外において、数多くの優秀な看護人材を世に送り出され、幅広くご活躍されています。

これもひとえに、富山県をはじめ、県民の皆様の長年にわたる温かいご支援はもとより、歴任教職員各位をはじめ、同窓会関係者の皆様の並々ならぬご尽力であり、深く敬意と感謝を申し上げます。

さて、ご承知の通り、少子高齢化の急速な進行や医療技術の高度化・専門化、療養の場や住民のニーズの多様化などに伴い安心して安全な医療の提供における看護職の役割は、ますます重要となっております。

富山県看護協会としても社会の変化に的確に対応するため、看護の質の向上、看護職が、やりがいをもって働き続けられる環境づくり、看護職の役割拡大の推進に積極的に取り組んでいます。

高度急性期医療や在宅医療、地域包括ケアシステムなど多様な場で質の高いケアが提供でき、そして更に広い視野に立つ高い実践力と研究的な目を養うことを目指し、平成 31 年（2019 年）4 月に富山県立大学が看護基礎教育 4 年制として全国に先駆けてスタートしました。

これまで貴学院を卒業された同窓生の皆様にとって、母校の閉科は何事にもかえ難い淋しさと思えますが、かつて、ナイチンゲール記章を受賞された牧田きせ様の大きな足跡を受け継がれ、より大きなものとなり、卒業生の一人一人の胸にはきざまれていることでしょう。

そしてこれからも受け継がれ、より一層、質の高い看護人材の育成に、総合衛生学院の教育理念である人間理解と生命尊重の精神を基盤とした教えは、活かされていくことでしょう。

終わりになりますが、皆様方のますますのご健勝とご多幸を心より祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

令和 3 年 3 月 4 日

公益社団法人 富山県看護協会
会長 松原 直美